

水素は 「夢」のエネルギー

当社の創業は1930年。LPガスの販売を始めたのは23年後の53年で、創業者・岩谷直治はその当時から水素に目をつけ、必ず水素エネルギーの時代が来ると確信していました。58年には水素製造専業の子会社を設立、78年には商業用液化水素を日本で初めて製造するなど、水素に夢と情熱をかけてきました。近年は環境に優しい脱炭素化のエネルギーが注目されており、LPガスや天然ガスのほかDME（ジメチルエーテル）や風力発電、太陽光発電なども出てきていますが、当社では長年にわたる研究・開発の取り組みから水素こそが究極のクリーンエネルギーだと考えています。酸素と結合すれば水に戻る水素は水から生まれて水に戻る循環型のエネルギーといえます。

エネルギーは大量に使用されますから常に安定・安全供給が求められます。水素の生産方法にはいろいろありますが、水を分解して作るのも一つの方法です。例えば、日本の周りにある海水を分解して大量に作る事ができます。さらに原子力発電の電力を利用すれば水素エネルギーを安価に作る事ができると思います。原子力についてはいろいろな意見がありますが、クリーンな水素エネルギーを安く作る一つの方法だと私は思っています。

世界はかなりの速さで水素社会に向かって進んでいます。当社でも関西電力グループとの合弁による国内最大の液化水素製造プラント、 hidroエッジの操業を昨年4月に開始しました。この事業は15年ほど前からの構想を水素社会の実現へ向けて形にしたもので、 hidroエッジが順調に稼働し、水素が注目される以前から描いていた夢が実現できてうれしく思っています。

水素エネルギーの普及には、家庭用の燃料電池、水素自動車や燃料電池自動車の開発にも複数のメー



牧野 明次氏

Akiji Makino
岩谷産業社長

カーが取り組んでいます。まず皆さんに身近に感じていただき、そのよさを理解していただくのが一番です。そこで関西で3ヵ所目となる水素ステーションを今年5月に関西国際空港にオープンする予定です。当社が持っている水素自動車や燃料電池自転車、車いすを関空内で使っていただいたり、市バスや空港へのリムジンバスが燃料電池バスに変われば、関空がクリーンな空港だという国内外へのアピールにもなります。さらに、いまは夢物語ですが需要家の所へ水素を配管で供給するなど、関西を「水素特区」として全国に先駆けて水素を使ったクリーンなまちにし、「クリーンなまち発祥の地」としてはどうでしょうか。そうすれば関西のイメージも変わります。

私は、水素事業に参入する企業がどんどん出てきてくれればいいと思っています。企業同士が切磋琢磨しますし、水素を利用する技術の研究もさらに進み、水素エネルギーを使う機器が次々製品化され、水素の普及が一層早まるからです。一日も早くそのような好循環が生まれるよう、水素ガス・水素エネルギーの魅力を増すべく、今後も努力を続けていきます。

夢を育み、追い続け、実現しながら一歩ずつ歩む、これが当社の原点です。新しいものに挑戦する意欲と夢がなければイノベーションは生まれません。CO₂を出さない究極のクリーンエネルギーであり、当社の長年の夢でもある水素エネルギーの時代は確実に近づきつつあります。どうぞご期待ください。

談